

放牧用ヤギのレンタルシステムについて



平成20年6月
八頭総合事務所農林局農業振興課
(問合せ先電話番号)
0858-72-3808 藤田 3816 寺坂

【貸出し対象エリア】

鳥取県東部（若桜町、智頭町、八頭町、鳥取市、岩美町）

【貸付け対象者】

ヤギを用いて農地・林地の草地管理を行う者
(個人(1人)、組織、団体いずれも可)

【貸出者】

鳥取県畜産農業協同組合(以下「県畜産農協」という)。
県畜産農協が飼育しているヤギを貸出します(貸出し業務を県が委託しています)。

【貸出期間】

春～秋まで(草がある間)を目安とします。今年度は5月15日以降貸出しを開始しています。貸出し申込み期限はありません。随時ご相談、申込みください。

【レンタル料金・貸出し頭数】

ヤギ1頭当たり2,000円(消費税込み)。2頭1セットを基本とします。

【放牧開始時(借入時)・終了時(返却時)のヤギの運搬】

運搬は軽トラックにヤギ小屋を載せ、その中にヤギを入れる等して簡単に運ぶことができますので、原則借入者が運搬することとしています。また、県畜産農協に5,000円(消費税込み、放牧開始・終了時合わせた金額)で依頼することも可能です。

【借入者がレンタルにあたって準備すること等】

1 放牧地の準備

餌となる雑草等が十分にある農地や林地で放牧するようにしましょう。また、ヤギが逃げないように杭等にロープで係留、または電気柵等で囲う準備が必要です。

<必要なものと所要経費の目安>

杭・針金(4千円程度)

ロープまたは鎖、結束金具(よりもどし等)(4千円程度)

雨よけ兼寝泊まりする小屋(木製 材料代8千円程度)

損害賠償保険掛金(20a当たり2頭当たり6ヶ月間 4千円程度)

計 2万円 (レンタル料:2頭分の4千円を合わせると 総計2.4万円)

*水はバケツ等で与えれば飲みますが、生草を食べさせている限りは必ずしも必要なものではありません。

2 ヤギの管理

放牧期間中、ヤギの管理は原則として借入者(組織の場合は構成員)ご自身で行っていただきます。放牧推進員(=普及員等の県職員)が技術的なお手伝いやアドバイスをします。

ヤギを健康な状態に保つために、ヤギの状態に異常が無いが、目・体の張り・糞の状態を見て確認するように注意してください。また、草木類や野菜以外のものを食べさせないようにしてください。

また、ヤギの角（つの）で人が怪我などをすることがないように、放牧地には注意喚起の看板を立てたり、子どもさんが近づかれる際には周囲の大人が気を付けるようにしてください。

3 病気になったら・死んでしまったら

ヤギは家畜の中で病気にかかりにくい丈夫な動物ですので病気の心配は少ないですが、農業共済等に参加していないので、病気になった際の治療に係る経費は借入れ者に負担していただきます。

なお、善良なる管理のもと、不慮の事故等で死亡してしまった場合には、やむを得ないものとしてその責任は問わないこととしています（賠償金等は不要です）。

4 逃げて他所の畑を荒らしてしまったり、誰かにけがをさせてしまったら

ヤギの放牧に関して、第三者に損害を与えた場合に備えて、損害賠償保険への加入を借入時にお勧めしています。20a当たり6カ月の放牧で保険料3,600円が目安です。

【放牧前の相談について】

放牧相談総合窓口は八頭総合事務所農林局農業振興課です(担当藤田、寺坂)。放牧予定地の下見にもお伺いします。東部総合事務所農林局、各町農林担当課、県東部JA各支店でもご相談を受け付けています。

【レンタル申込み手続き】

ヤギレンタル申込書に必要事項を記入し、各相談窓口を経由して県畜産農協に提出してください。

レンタル料金は、申込み完了時に県畜産農協にお支払いのうえ、領収証をお受け取りください。

【放牧推進員がバックアップします】

・放牧推進員が放牧前、放牧中の相談をお受けします。

・放牧期間中は寄生虫の駆除と予防のため、駆虫剤を定期的にヤギの体に塗布する必要があります（レンタル料金に駆虫剤料金は含まれています）。駆虫剤は放牧推進員が定期的に見回りを行う際に塗布します(放牧相談員への相談については、まずは八頭総合事務所農林局農業振興課へご相談ください)。



クズやヨモギ、ササなどを好んで食べます。多くの草の種類を食べることを好みます。



軽トラックに手作りの小屋を乗せて、その中にヤギを乗せ運ぶことができます。



杭上部に針金を渡し、針金とヤギの首輪をロープでつないで放牧します（一例）。



放牧地に設置された看板。放牧目的、角に注意してもらうこと、草以外食べさせないようにとの注意喚起をしています（一例）。

ヤギレンタル放牧に関するQ & A

平成20年6月

八頭総合事務所農林局農業振興課
(問合せ先電話番号)

0858-72-3808 藤田 3816 寺坂

(ヤギの借り方や準備物など、レンタルシステムの活用については別紙「放牧用ヤギのレンタルシステムについて」をご覧ください)

Q 1 なぜ他の動物ではなく、ヤギを農地管理用に貸し出すのですか？

A 1 理由 1 **扱いが簡単**

小柄で人に慣れやすいヤギは、家畜の扱いに慣れていない初心者や高齢者にも扱いやすいものです。昭和30年代頃までの農村では草を食べさせるためや乳を利用するために広く飼われていました。病気にもかかりにくく、丈夫な点も利点です。

A 1 理由 2 **放牧設備が簡易**

杭を地面に打って、そこにロープでつなぐ等の簡易な方法で放牧が可能です。首輪、小屋、ロープ、杭があれば放牧準備完了です。また、電気柵や板などでの囲い放牧も可能です。

Q 2 ヤギが草を食べる量の目安はどれくらいですか？

A 2 目安として、**大人のヤギ2頭で10aの面積の雑草を約1カ月で食べます**。半年間放牧する場合は、20a程度の農地を準備し、順々に食べさせていくと良いでしょう。

Q 3 放牧は和牛の方が一般的だと思いますが、ヤギ放牧は和牛と比較してどう違いますか？

A 3 経済的メリットの大きな和牛放牧、より簡単に始められるヤギ放牧の両方を推進しています。主な違いは以下のとおりです。

食べる草の量は牛の約5分の1

牛は大面積に、ヤギは小面積の草管理に向くと云えます。

牛では2頭当たり1haの農地が必要ですが、ヤギの場合は合計で20a程度の小区画農地が何枚かあれば2頭を半年間放牧することができます。

ちょっとした草地でも手軽に放牧でき、畦草刈り等小面積の草地管理にも向いています。

多くの面積を放牧でききれいにする場合には和牛のほうをお勧めします。

また、ヤギの放牧に慣れていただいた後には、畜産農家との連携のもと、牛の放牧にも取り組まれる事をお勧めします。

多種類の草を食べる・地際まできれいに食べる

牛と比較して沢山の種類を食べるので、牛の食べ残しを食べさせるとすっかりきれいになります。また、牛との混牧も可能です。

地際まできれいに食べるので、ヤギが食べた後は芝生を敷き詰めたようにきれいになると言います。

体重が軽いので畦などを壊さない

長年放置され、水管理が行き届かないほ場では体重の重い牛ではあぜ等が崩落する危険がありますが、ヤギは軽いので心配不要です。元々急斜面の山岳地帯に生息する動物なので斜面の登り降りも得意です。

Q4 ヤギは何頭で放牧するんですか？

A4 ヤギや牛は群れで暮らす事を基本とする動物です。1頭になると情緒が安定しないことがあるので、**2頭以上での放牧が基本**です。レンタルの際には2頭1セットを基準としています。

Q5 なぜ春から秋の期間に限ってレンタルするのですか？

A5 **春から秋の草がある間、草を食べさせてきれい**にしたい農地や林地で放牧することを想定してレンタルするものです。冬になると雑草は枯れたり、雪が降ったりするので放牧は難しくなり、干し草等の餌を与える必要が出てきますので、冬場には県畜産農協に返却するシステムにしています。

Q6 ヤギはただ借りて草を食べさせるだけでしょうか？経済的な活用の可能性はありますか？

A6 まずは草を食べさせて農地や林地をきれいにするところから始めましょう。継続的に放牧し、積極的に利用するような機運が出てくれば、将来的には以下のような活用方法が期待されます。

<地域資源としての活用の可能性>

1 **ヤギに会えるむらづくり** 観光資源・グリーンツーリズムの素材化
中山間地域の魅力の創出や、子ども達への情操教育・農業への理解促進にも繋げることが可能。

2 **家畜的利用 食肉用** ヤギの食文化は国内でも九州を中心に盛ん。食肉用としての出荷も可能。

3 **家畜的利用 乳の利用** 母乳に似た成分で牛乳アレルギーの人にも優しい。チーズ・アイスクリーム・シャンプー等への加工による地域資源としての活用が可能。

事業名 ~どうぶつの守(もり)~放牧で守る里・山・田んぼプロジェクト事業
レンタルシステム構築事業 単県事業(H20~21年度)
県委託事業(委託先:鳥取県畜産農業協同組合)
*平成19年度八頭総合事務所次世代改革若手職員サブチーム
(産業振興・雇用確保チーム)提案事業

